らうんじ・２０１３年１月～６月

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋2013･06･28
成田市生涯大学院での「丈人力のススメ」講座

昨年は11月だった「丈人のススメ」講座を6月にというのが事務局の長田さんのご意向である。なるほど、クラス編成が終わってさあこれからという時期に、高齢社会の現状と成田市生涯大学院のありようを外からの視点で話してもらうのは学生にとってもいい時期である。1年生の2組にそれぞれ「丈人力のススメ　人生90年時代の生き方」と題して話をした。前にも記したが、成田の特徴は、専門6講座を技術系芸術分野をクラスにしているところにある。書道、園芸、陶芸、油絵、音楽そして体操の6講座で、3年の間にまずは自分が技術を高めて楽しみ、クラスみんなで切磋してお互いの向上を楽しみ、そのあと卒業後は成果によって市民みんなを楽しませようというコンセプトに無理がない。他の生涯大学校に多い文化系知識部門がないが、それは高齢期に必要な知識として年間25の教養講座によって共有されている。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013･06･22
「富士山」が世界文化遺産に

富士山の世界文化遺産登録が決まった。文化遺産であることからしても、
保存と管理には地元の知恵をおおいに活かしてほしいところである。
優美な風物と伝統文化はわが民族の誇りとすべきところ。
一生に一度は訪れてみたい国・日本であるような「国づくり」がふさわしい。
春。咲き誇る桜・さくら・サクラの下で日本酒（地酒）を酌み交わしつつ語り・・
夏。浴衣を着て縁台に坐ってうちわで涼をとりつつ棋に興じ・・
秋。温泉に浸かりつつ暮れなずむ紅葉を愛でてのち和膳に着き・・
冬。青い空に際立つ冠雪の富士山を眺めて一服の茶と菓子に潤い・・
やっぱり一生に四度は訪れてほしい国・日本に。
天恵を享受しながら暮らしている日本人の
温和なホスピタリティを人生の恵みとして分かち合えるような。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋2013･06･15
三浦雄一郎さんの快挙

★三浦雄一郎さんが70歳、75歳につづいて80歳でエベレスト登頂に成功しました（5月23日）。世界初の快挙です。昭和7年（1932年）10月12日の生まれ。三浦さんの成功は、同年輩のとくに男性のみなさんに力を与えてくれたことでしょう。 ☆日ごろの「アンチエイジング」の重要さを主治医のひとり白澤さん（加齢制御医学）が述べています。性格が前向きであること。からだ・こころ・ふるまいにおいて年

齢より若いことに努めること。60歳台の体力（からだ）、負荷をかけての外出（ふるまい）、将来にむかってワクワクする「夢」を持ちつづけること（こころ）。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋2013・06・15
大正生まれの童謡のこと

★大正生まれ（88歳＝米寿以上）のみなさんに申し訳なく思います。戦中には戦場と銃後をまかされ、敗戦で捨て置かれ、戦後（昭和20年には20歳～34歳）の復興を負わされ、いま晩年には黙止されて生きる・・。これでは日本が国際的に先行する「高齢社会のモデル」をつくっているなどといえません。
☆戦争で夫を失ってひとり暮らしで子どもを育ててきたはての病の床で、慰めてくれるのは幼い日に母さんが教えてくれた童謡です。それを口ずさんで日々耐えている女性高齢者。「三世代年表」で見るように童謡は大正時代に集中してつくられて、戦中・戦後をうたわれて、みんなの心を温めてくれました。放射能に汚染された被災地のみなさんが歌う「ふるさと」には万感の思いがこめられていました。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋2013・06・15
「国際的孤立」を避ける

★政治リーダーの発言が、わが国の「国際的孤立」を深めています。中国・韓国とは歴史的認識で。アメリカ・ヨーロッパでは慰安婦発言で。アメリカ・ロシア・中国という大国にはさまれた「小日本」は、どう平和を守り、国際的に認められる国として立っていくのか。国益をごり押しするのではなく双方の立場を仔細に検討したうえで、平和主義を貫く将来構想を掲げることができるかどうか。 ☆高齢者は、「憲法改正」の国民的論議の場で、「戦争を知らない現役世代」に、戦禍の生の体験を伝えて、「平和憲法」護持の潮流を強くする機会とすべきでしょう。父祖の過酷な経験を伝える活動は、国際的孤立を回避する力になるでしょう。 ☆高齢者は、「特性を活かした地域の活性化」をめざして、国防軍にたよらずに国防意識と平和主義を堅くする「強い地域」の形成に努めること。「強い地域」の形成なら誰が異論を唱えるでしょうか。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・06・01
100年の横浜赤レンガ倉庫に「一期一会の”今の光”」

明治開港都市・ヨコハマで、「TICAD・V」が開かれて、
アフリカ50国余の首脳が訪れて、“異人の町”ヨコハマを現出しています。「あふりか月間」のイベントのひとつとして、100年を迎えた赤レンガ倉庫をスクリーンとして、「長谷川章×横浜赤レンガ倉庫×デジタル掛け軸」が、5月31日（金）～6月7日（金）まで催されています。
アフリカから遠路訪れた人びとが、100年前のヨコハマに想いを馳せて、この映像を通じて100年後の自国の発展を今のヨコハマに重ねてみるとしたら、イベントは大成功といえるのでしょう。ホテル・ナビオス横浜のラウンジからもみることができるそうですから。長谷川さんの「D－K」は、世界遺産など過去の事跡を未来に残そうする構造物を「一期一会の“今の光”」によって浮かび上がらせて、ゆっくりと

心の中に落とし込む動く芸術というものなのです。８月には世界遺産「原爆ドーム」を「Ｄ－Ｋ」とする予定があるそうです。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013･05･30

敬愛する　西園寺一晃　様　　2013･5･30（朝方）　記

きのうは久しぶりにお会いしたゆえ長居をいたしました。
・「尖閣」の処置・利用に関してのアメリカ抑止力。
・米中対決時期での日本の役割。
・OECD2060 年GNP予測での中印米の順位と日本の低位。
・不毛の中国包囲網アベノリスク。
・日本先行技術（環境ほか）のアジアでの主導性。
・高齢者・高齢社会問題についての中国側の高い関心

・・・ややマクロの問題に終始いたしました。メモしていったテーマは
・孔子・朝日選書『さまよえる孔子・よみがえる論語』（竹内実著）
・孔子学院のおしごと
・日中友好の近現代史・政治と文化
・日中友好協会・「日本と中国」
・共有するツールとしての「四字熟語」
「賢妻良母」と「良妻賢母」、「同舟共済」と「呉越同舟」
・・・など。

「高齢社会」に関しては、現状では先行「モデル事例」として
途上国に提供できるレベルになく、残念に思います。
web「月刊丈風５月号」pdf 版をお届けいたします。本号では
・「新しい戦前への一歩か　国防軍と国際的孤立」
・「東大がつくった高齢社会の教科書」
などをお読みいただけるとしあわせです。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013･05･22

現役政治リーダーには現役シニアの人生がみえない

（「月刊丈風」５月号を公開しました。編集月旦　2013 年５月号から）

★アベノミクス金融緩和策がさまざまな格差を産んでいることはたしかです。企業ではトヨタとパナソニックに際立ってみえています。世代・個人でみると、年金暮らしのお年寄りに恩恵はないようです。それどころか、自分たちが苦労してこしらえたみんな等しく豊かになる社会が、足元から崩れていくのを感じています。そのうえ病に冒されていたら生きる気力すら失うでしょう。

☆鳩山総理は施政方針演説で「ひとり暮らしのお年寄りが誰にもみとられずに死を迎える」いたましい事例をとりあげていましたが、安倍総理も麻生副総理もひとことも触れていません。億兆円のお金で人を動かす政治家に、高齢者の実人生など視野にないでしょう。
☆いずれにしても現役政治リーダーには、3000万高齢者の人生がみえないようです。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013･05･22

「大正人」のみなさんに申し訳ない

（「月刊丈風」5月号を公開しました。編集月旦　2013 年5月号から）

★大正人（88歳＝米寿以上）のみなさんに申し訳なく思います。戦中は捨て置かれ、戦後（昭和20年＝20歳～34歳）は苦難を負わされ、いままた晩年に敬意どころか黙止されて生きる･･。これで「高齢社会」のモデルをつくるなどといわないでほしいものです。先に夫を失ってひとり暮らしの病の床で、幼い日に母さんが歌ってくれたやさしい童謡を口ずさんで耐えている女性高齢者の方もいることでしょう。
☆『月刊丈風』に再録しましたが、「大正生れ」の歌「♪大正生れの俺達は･･」からは苦労しつづけた男たちのぼやきが聞こえてきます。ほっと一息ついた1975～80年ころ、50～60歳代になったわが身を省みて歌った歌には、「昭和生まれ」の子どもたちの行く末を思うとまだ休んじゃいられないと、お互いを鼓舞してくれていたのでした。
★大正生まれの方々をサミットとする「日本高齢社会」は平和の証です。それをしっかりつくることが、平和を守り国を守る姿です。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013･05･22

地域活性化と高齢社会が平和主義の証

（「月刊丈風」5月号を公開しました。編集月旦　2013 年5月号から）

隣国から歴史を学んで反省するよう求められたり、頼りにしているアメリカから言語道断として見放される発言をする政治リーダーは、みずから国際的孤立を深めています。アメリカ･ロシア･中国という三つの大国にはさまれた「小日本」。どうして平和を守り、国際的に認められる国として立っていけるのか。将来構想を立て、それに向かってすすむ「国民総和」の平和主義が求められています。国防軍によらずに強い平和主義の国防意識をもつ国民の存在。「憲法」をめぐる議論は、高齢者が現役世代に原体験を伝えて「憲法」護持の潮流を大きくする機会とすべきでしょう。
★地域を活性化することは国防意識と平和主義とを強くします。石橋湛山の「小日本主義」や大河内正敏の「農村工業」や田中角栄の「列島改造」をまつまでもなく、競って地域活性化に努めること。世代間討論では、「戦争の悲惨」とともに1980年ころの「九割中流（大同）社会」の良さを語ることも必要でしょう。若者･中年者のもつ「成長力」と高年者のもつ「成熟力」「継承力」によって新たに形成される地域社会なら国際的にだれが異論をとなえるでしょうか。かくして国民活力による「経済全体のパイ」が見えてきます。
★一人ひとりが長寿であること、長寿になることを喜べる「日本長寿社会（超高齢社会）」の達成とアジ

アに住むみんながカを合わせてつくる「アジアの共生（豊かさの共有）」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の課題です。（堀　亜起良　堀内正範　記）

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・04・16

「大正生れ」の歌　「♪大正生れの俺達は・・」のぼやき

（「月刊丈風」4月号を公開しました。編集月旦　2013 年4月号から）

★昨年は大正１００年。「大正生まれ」が百寿期に達したということになります。新しい歌は「春の小川」、流行語は閥族打倒でした。今年は昭和８８年なので数えで米寿。この年の歌は「この道」、流行語はモガ・モボでした。大正生まれの人びとは母さんが歌う童謡を聞いて育ったのでした。

☆しかし「大正生れ」の歌　からは苦労しつづけた男たちのぼやきが聞こえてきます。

「♪大正生れの俺達は・・」戦友として仲間を失い、生き延びて「企業戦士」として戦後の復興と高度成長を働きずめで成し遂げ、ほっと一息ついた１９７５～８０年ころ。５０～６０歳代になったわが身を省みて歌った歌には、「昭和生れ」の子どもたちの行く末を思うとまだ休んじゃいられないと、お互いを鼓舞したのでした。

☆「大正生まれ、二等兵の平和思想」は、中公新書『田中角栄－戦後日本の悲しき自画像』の著者早野透氏の講演の趣意です。早野さんは「金権政治の戦後政治家」像に覆われてきた田中角栄を、民主主義・金権政治・平和思想という多面的なファクターで見直しています。その平和思想の体験的モデルを、石橋湛山の「小日本主義」や大河内正敏の「農村工業」の地域開発に求めています。日中平和交渉とともに「列島改造」という地域改革は、田中角栄の「大正生まれ、二等兵の平和思想」の表現であり、それは丸山真男や渡辺恒雄や山中貞則氏と共有するものであるとみています。たしか村山富市さんもそうでした。

☆大正１２＝１９２３年１月２０日生まれの俳優**三国連太郎**さんが他界されました。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・04・16

「アベノミクス」効果は一過性、そのあとの成長は

（「月刊丈風」4月号を公開しました。編集月旦　2013 年4月号から）

★「アベノミクス」効果に浮かれすぎていないでしょうか。次第に拡大してゆく各界の格差。先人が労苦してこしらえたみんなが等しく豊かになる「大同型社会（九割中流）」が、目の前で解体していきます。みんなが等しく豊かになる方向を見失ってまで「アベノミクス」に期待していっていいものかどうか。安倍総理の所信表明演説にも施政方針演説にも「高齢者参加」を呼びかける文言は見出せません。ですからこのまま任せておいては高齢者が安心して暮らせる社会にむかうことはないようです。

☆「デフレーション（萎縮）」からの脱却を掲げた「成長戦略」をしくじると「財政巨大赤字・企業収益格差・国民世代不和」によってこの国は自力浮揚の方途を失います。３０００万人一人ひとりの力による「成熟戦略」が持続可能な経済成長戦略です。

★「国民の活力」というと、すぐ若年層の「成長力」に求めるのが旧来の思考です。「世代交代論」がそ

れ。増えつづける高年者層の優れた「成熟力」「継承力」によって新たに形成される経済社会は、持続的成長力をもっています。その理解のためには「多重型思考」が必要です。「日本長寿社会」は「三世代多重型社会」なのですから。それによって初めて国民のもつ全活力による「経済全体のパイ」が見えてきます。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・04・16

「ナノコーポ」（小規模高齢起業）が自己実現の手法

（「月刊丈風」4月号を公開しました。編集月旦　2013 年4月号から）

「ナノ nano」は微細、「コーポ corp」は企業。アメリカ生まれの高齢者企業（起業）です。訳せば小規模企業（起業）、ミニミニ企業（起業）となりますが、「ナノコーポ」のままでいい。わが国でも高齢期の社会参加の形で水玉模様のように各地に広がっています。

「ナノコーポ」（小規模高齢起業）は、退職後をいきいきと過ごす「半働半遊」であり、「老後の三大不安」といわれる「健康不安」「経済不安」「孤独不安」をまとめて解消できるのがメリットで、「スマート・エイジング」（賢い加齢）には最良の事業活動です、と解説するのは村田裕之東北大特任教授。

そのためには、

①　「自分のやりたいことの実現」（自己実現・ライフワーク）であること

②　自分のこれまでのキャリアを活かせること

③　借入を多くせず自分サイズの事業規模にこだわること

④　それができないならいさぎよくやめること

それができるところが「ナノコーポ」のよさだという。

高齢社の上田（研二）さんは伝道師のようにその「ノウハウ」を伝えて多忙なようです。同社の「かじワン」は仁木（賢）さんの企画による「女性版」。月に5万円ほどの定収入を得てしごとをする喜びは、無償ボランティアとは異なった充実感を与えてくれるようです。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・04・16

高齢期人生への東大からの贈り物

（「月刊丈風」4月号を公開しました。編集月旦　2013 年4月号から）

『東大がつくった高齢社会の教科書』が発刊された。予告より少し遅れたが、それでも12月までの新資料を収めながら奥付では3月期末に間に合わせたところに、事務局・編集サイドの並みならぬ労苦が推察される多重で柔構造をもった教科書本である。（2色刷り。312ページ。本文33字×40行。図表多数）

まず「東大がつくった」というタイトルをつけたところに街談巷議での賛否は分かれるだろう。が、ひねればひねるほど毀誉褒貶が増す世相だから、直球で悪乗りジャーナリズムを撃退しておくほうがいいという判断は、東大らしい“世相の読み”を感じさせる。はじめに言ってしまうが、第一回検定日の9月14日（土曜日）が、「老人の日」の前日、「敬老の日」（第三月曜日）の前々日に設定されているところにも、

用意周到な“世相の読み”を感じさせるカッコよさ（クール）がある。
他がやらないうちに「東大がつくった」と読めば、課題そのものはこの国に潜在しているのに巷間の対応がいかにもにぶく遅延しているという“学界からの有訴”すらうかがえようというものである。実際にジェロントロジーとジェロンテクノロジーをいっしょに説くほどに、この国の「高齢社会」（「高齢者社会」ではない）にかんする対処は手つかずのまま遅延している。制作にあたった東京大学高齢社会総合研究機構からして2009年4月の設立という新参機構なのである。とはいえ各分野のしっかりした基礎研究を総合化して、短時日にここまでまとめあげた学界の底力には頼りがいがある。
上に「巷間」といったが、それは学界をのぞいた政界、経済界、官僚そしてジャーナリズムと世論にまで及ぶもので、雑にいえば現状では学界の独り舞台なのである。この本をつくった東大関係者の方々もそう自負しているにちがいない。
検定はさておいて、この国で暮らす高齢者の高齢期人生への東大からの贈り物である。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013･03･21
「日本長寿社会のパラダイムシフト」
（「月刊文風」3月号を公開しました）

史上初・国際的に先行する「日本長寿社会＝超高齢社会＝三（四）世代多重型社会」の新たな内容を盛るために新しいことば（器）を用いています。21世紀の初頭にわが国の65歳以上の「支える側の高齢者」（現役シニア＝昭和丈人）層が中心になって、わが国独自の文化、伝統、暮らし方を活かして「成熟」した姿の「日本高齢社会」をつくることになります。国連が提唱する「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」（国連「高齢者五原則」）を体現しながら、平和裏に国際的成功モデルを達成すること。青少年・中年・高年者それぞれが「人生の豊かな成果」を享受できる新たな社会「日本長寿社会」へのわたしたちの活動は新たなパラダイムシフトによって展開いたします。

20世紀後半期の社会		21世紀初頭の社会
・「人生65年時代」	→	・「人生90年時代」（65＋25年人生）
・支えられる高齢者	→	・支える側の高齢者・現役シニア・昭和丈人
・「二世代＋α 型」社会	→	・「三（四）世代多重型」社会
・「成長」力の時代	→	・「成長・成熟・継承」力の時代
・標準家族・一人暮らし高齢者	→	・三世代同居・近居・地域包括ケア
・還暦・古希・喜寿・傘寿・米寿・	→	・賀寿期五歳層ステージ
・余生・孫育て	→	・自立・参加・ケア・自己実現・尊厳（国連「高齢者五原則」）
・少子・高齢化社会	→	・高齢社会・超高齢社会・長寿社会
・ピラミッド型・瓢箪型人口構造	→	・釣りがね型人口構造
・団塊世代（昭和 22～24 年生）	→	・平和団塊世代（昭和 21～25 年生）
・青少年期に能力養成	→	・高齢初期（60~65 歳）に2回目の能力養成

・生涯学習　　→　　・地域大学校
・国土の均衡ある発展　　→（とともに）・個性ある地域の発展

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・02・10
安倍総理の所信表明演説を「高齢者参加」で読む

安倍総理の所信表明演説を「高齢者参加」で読む　をweb公開した。金融と財政によるアベノミクス効果は、海外の高い日本評価に支えられてしばらくはつづくだろうが、一過性であることは衆目の見るところ。その反動を食い止めて成長を持続させるためには、国民の潜在活力の支えが必要となる。その潜在力はどこにあるのか。若者の成長活力はすでに手一杯に発揮されている。となると、これまで軽視・黙止されてきた「支える高齢者」層の潜在的な「成長・成熟・継承」力の外にはありえない。その立場から所信表明演説を「高齢者参加」で読んだのが本稿である。国政の虚を突いたようだが、総理大臣がだれになろうと、次にはこうせざるをえないのである。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・02・05
「民主党再建への提案」を海江田代表へ

「民主党再建への提案」を落合友子秘書を通じて海江田代表におくりました。元毎日新聞政治部副部長の尾崎美千生さんとの連名で書いたもの。A42枚。2600字。小見出しは4つ。　・新世紀10年余にわたる「高齢社会対策」の不在　・「人生90年時代」の「支える側の高齢者」（現役シニア）の登場　・「ライフ・イノベーション」としての高齢社会　・「高齢者参加」による持続的な経済成長　にまとめてあります。いまや人口比率で23・3％、3000万人に達した高齢者（65歳以上）。その「知識・技術・経験・資産」といった潜在力を軽視できないこと、余生をすごしていたのでは財政も社会体制ももたないこと、政治の側が動かなければならない時期にあることなどを簡潔に述べた。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・02・04
「賀寿期還暦期」（60～69歳）をつくりました

「賀寿期5歳層」は、「古希期」（70～74歳）、「喜寿期」（75～79歳）、「傘寿期」（80～84歳）、「米寿期」（85～89歳）とつないで、今回は「還暦期」（60～69）をつくりました。ことしでいうと昭和19年から昭和28年までの10年間です。人名録でみると、昭和19年の飯島秀雄（1・1 陸上）　香山美子（1・1 女優）　小林興起（1・1 政治家）氏から昭和28年の角川博（12・25　歌手）　藤波辰彌（12・28　格闘家）　真鍋邦夫（12・30　経営者）氏あたりまで。60代は人生の成熟期・果実期ですから、時めいて暮らしてほしいところです。いわゆる「団塊の世代」(本稿では「平和団塊の世代」)がふくまれています。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・02・03
「『日本長寿社会』は三世代多重型」の新原稿

「『日本長寿社会』は三世代多重型」の新原稿に終日かかりきりでした。
「長寿社会」はすべての世代（all ages）にかかわる場合で、「高齢社会」は高齢者（older persons）にかかわる場合と使いわけをする場合があります。
わが国の経緯を追ってみますと、「長寿社会対策大綱」（1986 年・中曽根内閣）がまず策定されました。、「高齢化社会」（1970 年～）を経緯して、24 年で「高齢社会」（1994 年～）にはいり、「高齢社会対策基本法」（1995 年・村山内閣）を制定したあと「高齢社会対策大綱」（1996 年・橋本内閣）を策定しています。その後に「国際高齢者年」（1999 年・小渕内閣）を迎えました。新世紀にはいって「高齢社会対策大綱」見直し（2001 年・小泉内閣）をし、「超高齢社会」（2007 年～）へと進んで、11 年ぶりに「高齢社会対策大綱」改定（2012 年・野田内閣）をおこないました。
そしてここでは「長寿社会=超高齢社会＝三世代多重型社会」として用いる場合があります。また「超高齢社会」を「本格的な高齢社会」とする場合もあります。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・01・18
雪後の白金台に藤井裕久さんをたずねる

前回の昨年１０月には霞が関の議員会館におたずねした藤井裕久さんにお会いするために、今回は尾崎さんとふたり、１月１８日午後、雪の残る白金台の細道をたどって事務所におたずねした。１２月１６日の総選挙で民主党は惨敗した。その主要な要因のひとつとして、わたしたちは、藤井さんのような優れた高齢議員を比例名簿のトップに置き、高齢者３０００万人（票。６５歳以上。有権者３・５人にひとり）に呼びかけて、「日本長寿社会（高齢社会）」を形成することで経済成長をもたらす政策（「人」の活力に期待する政策）を掲げえなかった結果であると、ひそかに結論づけている。それは国際的にも注目されている「活力ある日本長寿社会」形成への道に渋滞をもたらした。高齢者の持つ潜在力を援軍にして持続的な経済成長を呼び起こすにあたって、政治の側が動くには、藤井さんのようなベテラン議員の参画を必要としていることはお伝えせねばならない。今回は「高齢社会」に関することに絞らずに、ご意見を聞いてみた。（前文より）

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013・01・09
「高連協年頭学習会」にて

高連協の「年頭学習会」が内幸町プレスセンター宴会場で開かれた。開会のあいさつのなかで樋口恵子代表は、「私はもう１０年近く、『人生１００年、人生１００年』といってきて、９０年ではまだ１０年足りないのですけれども。これははっきりと平均寿命が７歳違う男と女の違いだと思っております。女性は平均寿命が８６歳だから、人生９０年といわれると『９０年、あと４年か』と思う。ところが男性は平均寿命が短くて８０歳未満ですから、『人生９０年、おお良いな』と思う。ここらへんにも男女の感覚の差があると思います」と述べていた。とすれば、樋口さんとわたしは６歳違いだから同じころに死と対面することになる。２歳違いの堀田力代表は樋口さんを「おねえさん」といって敬うが、よほどがんばらないとおねえさんに弔辞を読まれてしまうことになる。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋ 2013･01･01

平成癸巳（みずのと･み）の元旦

★平成癸巳（みずのと･み）の元旦に南九十九里一宮海岸で迎えた初日の出です。東天の水平線に近く低く横長の雲が懸っていて、待つことひとしきり、光芒から雲の陰の太陽の位置が知られた瞬間のショット。地元の友人又村紘氏の撮影です。光を映さない波涛が海の質感を伝えて、神性を秘めた天恵への願いをみごとに捉えています。（web「月刊丈風」1月号の「編集月旦」に掲載）

★「雪降るな　ここは被災地　差せ初日」は、被災地に寄せる高連協代表堀田力さんの心優しい発句です。添え書きの「平和団塊」というのは、両親から平和裏に生きることを託された戦後生まれの人びとで、青少年・中年期を過ごしおえて高齢者の仲間入りをしつつあります。（web「月刊丈風」1月号の「編集月旦」に掲載）